

読書でビジネス力をアップする(第59回)

損得が当たり前時代に「損」を見ずに生きる

2020.04.02



得する、徳。
栗下直也 著
CCCメディアハウス

働き方や生き方を考える本です。人に与えたり、人助けをしたりすることで、やがて成功者になれると説きます。もちろん、単なるお人よしでなく、成功者になるための正しい徳の積み方が分かります。

昔から「ビジネスには信用が大事」といわれてきました。昨今は、「信用さえあれば生きていける」とまでいわれます。そうはいっても、やはりきれい事と思われるかもしれません。しかし、歴史をひもとけば、名経営者ほど徳を積んで成功しています。どうすれば正しく徳を積むことができるのか、多くの財界人を取材してきた経済記者が教えてくれます。

「信用がお金に変わる」といわれても、戸惑うのが普通です。そこで、例えば「信用」を「徳」に置き換えてみます。すると歴史に先人のお手本があふれていることに気付かされます。

本書は「お金よりも信用を積み」「テイクを考えずギブせよ」と主張します。まるで怪しい宗教団体のようでうさん臭いと思うかもしれませんが、読めば「徳がやがて得になる」ことが分かるはずです。

まず「徳」が重視されつつある現状と、徳の積み方を説明します。次いで偉人たちの足跡をたどりながら、彼らの徳を現代社会に生かす方法を解説してくれます。

さらに、徳とは無縁でいられなくなった会社を考えます。「金にならないことはやりたくない」とか「そんな余裕はない」という人も、徳を積むべき理由が分かるはずです。

会社を経営する経営者や幹部社員、そういう人たちを顧客に持つ仕事をしている人は必読です。さらに、信用がお金に勝るといわれる時代をどう生きればいいのか分からない人にもオススメです。

損得のバランスを最優先する人は…………… 続きを読む